まず！やってみる！新聞

笠岡市議会議員　NO.9
守屋もとのり
2026.6.20発行
090-5374-1333(守屋)

任期半ば、これまでの取り組みを振り返る

後援会ホームページ

各種行事の情報は！
「よし今だ新聞」

6月議会が終了し、後半の2年がスタート。市議会も議長・副議長の改選、各種委員会の再編も行われています。所属会派である「みんなの笠岡」は真鍋代表と私の2名会派で引き続き後半戦を戦い抜きます。私は引き続き「厚生産業委員会」「議会運営委員会」「行政改革特別委員会」「都市計画審議会委員」という役割で頑張ってまいります。

これまで重要課題と考えているのは、①まちづくり協議会等の地域運営組織の再編。②市内3公立高校の再編に関連した新しい人づくりです。

これまでの質問項目

2024年6月
定住施策について
まちづくり協議会について
地域おこし協力隊について
ふるさと納税について
2024年9月
地域防災について
耕作放棄地解消について
2024年12月
財政健全化について
機構改革について
2025年3月
財政健全化について
新年度予算について
2025年6月
人づくりについて
・学校現場、地域、行政等
2025年9月
財政について
臭気対策について
日本遺産について
地域おこし協力隊について
地域の魅力化について
2025年12月
笠岡駅周辺の活性化について
地域づくり人材の育成について
関係人口の創出について
2026年3月
高校再編について
地域運営組織について
過疎諸島の航路再編について
産業振興・市民所得の向上について
観光行政について
ふるさと住民登録制度について

2年間で8回の質問に立って左のような項目で質問をさせていただきました。地域に関しての項目が多くなっています。今回の質問項目にもあげていますが、まちづくりの基礎となる地域運営組織の再編が急務だと考えています。

動きが見える市議会！

議会の中で自分の頭で考えて、周りに流されない、ベテラン議員に忖度しない姿勢を通しているのでかなり風当たりが強いですが、まだまだ議会の雰囲気を変える度量はありません。視察や研修を通じて考えるよりもやりながらというスタンスで動きの見える議会となるように力を尽くしたいと思います。

5月の臨時議会では議員定数削減の住民署名による議案が上程されましたが、17対２で否決という結果に終わりました。なぜそのような署名活動が起こるのか。それは議員の活動が見えないゆえの結果だと思います。議員一人ひとりが真摯にそのことを受け止めて、結果を出して行かなければ住民理解は得られないと思います。

今現在考えている事は以下のとおりです。

〇会派での話し合いはあるけれど、会派を越えての議論がない。⇒会派を越えての議論を深めるために新しく課題ごとに有志で集まり議論できる「議連」の取組を始めます。

〇個人質問の内容も事前調整がないために内容がダブるケースがあります。また、各委員会の2年ごとの政策提言も提出して終わりの感があります。委員会ごとの政策提言のテーマについて委員会の総意を得た政策提言に基づく一般質問等の手法を取っている他の市議会の事例もあったので、問題解決に一番近い手法を研究したいと思っています。

〇個々の事業というより事業間の連携を意識して新しい価値観の創造につなげたい。前向きにチャレンジする文化を醸成したい。

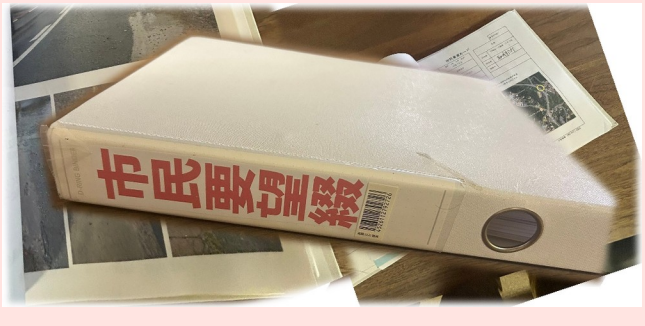
朝の交通モニター継続中！

2024年1月9日から始めた辻の交差点での交通モニターも3年目に突入。毎朝子どもたちの「おはよう」が毎日のスタートとなっています。そして、いろいろなハプニングが起こるのをいい意味で楽しんでいます。交差点の改良についても現在進行中です。

要望も定期的にチェック

市民の皆さんからいただく要望は「市民要望カード」にまとめて必ず文書で担当課に届けるようにしています。

そして、要望を一覧表にして定期的にチェックし担当課へ確認作業を行っています。地域要望はそれぞれの地区で主体的に出来るようなやり方等を模索中です。



自ら情報発信！

情報は「発信するところに集まる」といいます。アナログからSNSまで、と言いながら一番の地域の広報手段は「口コミ」だと思っています。そんな地域コミュニティを重視し、若い担い手を地域に引き込むためにはSNSは欠かせません。タイムリーな情報発信に心がけます。

6月議会一般質問　6月5日（金）

6月2日開会で令和８年第３回笠岡市議会定例会が開会され、６月補正予算等が上程されました。6月16日までの会期で各種議案に対して審議が行われました。以下、私の質問内容及び回答を掲載します。

【1】干拓地の“におい問題”をもっと前へ
昨年度、市は測定器の実験や臭気ネット、AI予知など様々な取り組みを進めました。しかし、**市長自身が「原因そのものの低減にはつながっていない」と答弁したように、依然として改善は見えていません。**

私は議会で次の点を強く求めました。
● 市民に“見える”対策を
臭気対策が進んでいるのか、市民にはほとんど見えません。そこで私は、「良い取り組みを行っている農家を公表し、見える化を進めるべき」と提案しました。これにより、結果的に改善が遅れている農家の行動も促されます。
● 臭気の“元を絶つ”対策を強化
昨年度はソフト的な取り組みが中心でした。私は、干拓地内に簡易の実験フィールドを設け、民間企業が新技術を試せる仕組みを提案。市は「オープンイノベーションで民間提案を募る」と答弁しましたが、私はさらに踏み込んだ実証の場づくりを求めています。

【2】マルナカ閉店後の買い物環境の悪化
マルナカ住吉店の閉店により、特に島民や高齢者の方から「買い物が本当に大変になった」という声が多数届いています。

● 跡地は事業者が再整備を検討中
市は「中心市街地の活性化につながることを期待」と答弁。しかし、整備までには時間がかかります。

● その間の“交通手段”の確保が急務
私は、「笠岡駅～番町商業エリアを結ぶ公共交通の再編」を提案しました。市は「立地適正化計画に基づき検討する」と答弁。

また、高齢者タクシー助成は今年度から１回あたりの上限額が撤廃され、使いやすくなりました。ただし、周知不足が課題であり、改善を求めました。

● 島しょ部への移動販売の社会実験を提案
清笠丸に移動販売車を積み込む案について、市は「用途変更や民業圧迫の懸念から難しい」と回答。私は、島民の生活を守るため、引き続き別の手法も含めて改善策を求めていきます。

【3】高校再編は“市が主体的に関わるべき”
県の高校再編が進む中、市はプロジェクトチームに参加し意見を述べています。

私は、「探究学習は“人のつながり”が命。市がもっと主体的に関わらないと魂が入らない」と指摘しました。

教育長からは、「子どもの“やりたい”を基点に探究を進めるべき」との前向きな答弁がありました。

【4】小規模多機能自治（地域運営組織）の本格スタートへ
市は令和８年度を「小規模多機能自治 元年」と位置づけ、地域の担い手不足に対応する仕組みづくりを進めています。

私は、**メリットが住民に伝わっていない**
公民館・社協・まち協が一体となる“共同設計”が必要
地域事務局の一本化で新たな雇用も生まれる と提案しました。
市は「拙速に進めず、地域と丁寧に進める」と答弁。引き続き、地域の声を反映させる仕組みづくりを求めていきます。

最後に
市民の生活に直結する課題を、これからも現場の声をもとに議会で取り上げ、改善につなげていきます。ご意見・ご相談はいつでもお寄せください。
次の議会の質問は9月議会です。取り上げて欲しい項目がありましたらよろしくお願いします。

シリーズ「まちづくり考」⑩
玉野の移住対策について

6月11日（木）玉野市宇野地区を訪れ、NPOみなと・まちづくり機構たまのの斎藤事務局長、IJUコンシェルジュ森さん、地域おこし協力隊金子さんから、移住支援と空き家活用の取組を伺った。2010年からの移住実績は200人に達し、NPOが地道に相談を続け、現在は市の委託事業として移住支援を担うまでに成長している。空き家巡りの際、古本喫茶の若い女性が「移住者が増え、宇野が面白くなると感じて玉野高校を選んだ」と語ったことが象徴的で、移住者の活動が地元の若者の進路選択に影響を与えている。瀬戸芸効果もあり、岡山市で開業予定だった地元出身者が玉野に出店する例も増加し、全国チェーンのはま寿司も出店するなど民間投資も動き始めている。玉野は移住相談と空き家管理を別部門で担当し、専門性を高めている点も特徴。私の関わっていた島の移住政策を振り返ると、受け入れ後の伴走支援が不足していたことを再認識し、空き家対策は「移住者獲得」ではなく「人材獲得」であるという視点の重要性を学んだ。

シーサイドモール・マルナカ閉店

シーサイドモール・マルナカが4月30日閉店。ニチイ開業以来47年の歴史の幕を閉じました。最終日には大勢の市民の方々が閉店を惜しんで集まっていました。跡地についての憶測がいろいろと飛んでいましたが、その後の新聞報道で多くの方々が胸をなでおろしたのではないかと思います。しかし、建設までの当分の間は、島に住む方々、駅前に住む高齢者の方々を中心に不便な生活を強いられる。商業機能が中心市街地から番町へと流れている。
しかし、こんな時こそピンチはチャンス。新しいサービスを考えるチャンスであると捉えています。①まずは既存の公共交通を考える。②もっと公共交通が現状にあった便利なものにならないか。③フェリーの就航しない島に代替え手段はないか。全て行政が担えるわけではないが、そういった問題に反応し、考えようとする前向きな姿勢が必要ではないか。
先日こんな話を聞いた。高校進学時に「ミスドやケンタッキー」といった店のある笠岡が選択肢に上がっていたということ。今は、倉敷・福山に流れている。マルナカ閉店時のミスドは閉店予定の18時を過ぎても多くの高校生で賑わっていた。こんな若者の声に寄り添うことも重要だ。

編集後記　栗尾市長の人事政策と事業の優先順位に少し頭をひねる場面が増えてきた。6月議会でも質問させていただいたが、重点とされている「臭気対策」「小規模多機能自治」それぞれの担当や課長がことごとく異動している。全体的に短期での異動が目につく。中堅職員の退職も増えてきている現状で、職員のモチベーション維持が大きな課題と言えるのでは。市民対話はもとより、職員との対話を密にして最優先の課題に注力し結果が出せる仕組みづくりが求められる。